

合に政府はどうなるであらうか。

最早ピストル爆弾の時代ではない社  
會大衆が國策會議に壓力を加ふるスアツシヨ政治化に反對する以上無産政黨の方針が輿論となりつつある事は事實であるこの意味からも廣田内閣の命は豫想せられる。

今日の狀勢は幕末に於けるそれと全く同じ過程を辿つてゐる、ピストルや暴力の時ではなく資本主義制度を打倒し昭和に於ける二條城の會議を迎へねばならぬ、尙一層の援助と鞭達を願ひ更に吾黨の方針に向つて邁進したい。

六、閉 會

發第二〇三號

昭和十一年十月三日

福岡出張所長 清原 進

官業勞働總同盟小倉革正會解散狀況別紙の通御送付申上儀